

健保組合におけるがん検診精度管理の標準的なプロセス構築と 実用化に向けた共同事業

(1) 健保組合におけるがん検診精度管理指標算出の標準的なプロセスの検討

- 健保組合における5大がん検診それぞれの精度管理指標算出に向け、要精検者、がん患者、精検受診有無の把握と算出手法の検討を行い、健保組合におけるがん検診精度管理の標準的なプロセスについて検討する
- 基幹システムの違いやがん検診判定結果の健保組合への提供のあり方など、標準的なプロセス構築の阻害要因について取りまとめ、解決策について検討する

	指標概要	算出に必要なデータ
精検受診率	要精検者のうち精検受診の割合	要精検者、精検受診有無
要精検率	検診受診者のうち要精検者の割合	検診受診者、要精検者
がん発見率	検診受診者のうちがん発見者の割合	検診受診者、がん患者
陽性反応の集中度	要精検者のうちがん発見者の割合	要精検者、がん患者
感度・特異度	真陽性、偽陽性、偽陰性、真陰性の把握	検診受診者、要精検者、がん患者

(2) がん精密検査フォローアップシステム及び標準的な工程表の開発

- がん検診精度管理指標のうち精検受診率に着目し、既存研究で構築されたレセプトを用いたがん患者抽出手法を応用し、5大がん検診の精検受診率算出のアルゴリズムを、健保組合内に設置したPCとSPSSを用いて以下の手順で開発する
 - がん検診判定結果より要精検者を定期的に把握する
 - レセプトの傷病コードと診療行為コードを組み合わせることでがん精密検査抽出用コードを作成する
 - 胃がん精密検査の抽出コード例
 - 傷病コード: C160~C169 など
 - 診療行為コード: 160093810、160062310 など
 - 抽出した要精検者のレセプトごとにがん精密検査抽出用コードの有無を確認し、要精検者・月ごとに精密検査受診有無を判定する
 - がん検診受診年月と精密検査受診年月との間隔をがん検診ごとに調査し、再勧奨のタイミングを決定する
- 開発したアルゴリズムをもとに、多様な健保組合の環境で稼働可能な汎用的プログラム「がん精密検査フォローアップシステム」を開発する
- がん精密検査フォローアップシステムを組み入れたがん精検受診率算出の健保組合共通の工程を検討し、標準的な工程表として取りまとめる

(3) コンソーシアム参加組合における標準的なプロセスによる精検受診率算出の試行

- がん精密検査フォローアップシステムと工程表をコンソーシアム参加健保組合で試験運用し、継続利用が可能で汎用性が高く実用的な枠組みとして完成させる

(4) 感度・特異度など各種がん検診精度管理指標の算出手法の検討

- がん検診精度管理の各プロセス指標及び感度・特異度の算出について、精検受診率と同様にシステム及び工程表開発に向けた検討を実施する。検討にあたり、既存研究で開発したがん患者特定手法を活用する。

がん検診精度管理共同事業 コンソーシアム

